

#### 4 学年の先生より

第1学年 森 美咲

引き続き体調管理に気を付けましょう。さてこの休校期間、お家での過ごし方はどうでしょうか？「つい、ネットで動画を見てしまうんです」なんて話してくれる生徒もいました。もちろん勉強系の動画もあり、有意義に使えている生徒も多いと思います。

ただ、どうしても動画やネットは受動的になります。この期間を自分のために使ってほしいと思っています。そこで、皆さんにして欲しいと思うのは読書です。「小説は読んでいるよ」という人もいるでしょうが、せっかくなので新書などにも挑戦して欲しいと思います。この時間のある時に新書を読んで、自分の将来を考えたり、興味を広げたりすることをしてくれたらと思います。

以下にオススメの本を書いておきます。自分の興味はどこにあるのか、自分と対話してみるのも良いと思います。

『詩のこころを読む』 茨木のり子 岩波ジュニア新書

長い間詩を書き、多くの詩を読んできた著者が、心を豊かにし続けている詩の中から数々を選び出し、その魅力を情熱をこめて語ります。

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレディみかこ 新潮社

優等生の「ぼく」が通い始めたのは人種も貧富もごちゃまぜのイカした「元・底辺中学校」だった。ただでさえ思春期ってやつなのに、毎日が事件の連続だ。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の息子とパンクな母ちゃんの著者は、ともに考え悩み乗り越えていく。

『いのちの食べ方』 森達也 角川文庫

魚は切り身で泳いじゃいない、そんなことは知っている。では、毎日食べる大好きなお肉はどこからどうやって、やってくる？

『動物を守りたい君へ』 高槻成紀 岩波ジュニア新書

人が良かれと思ってしまうことは本当にペットのためになっているのだろうか。家畜の命をいただくということはどういうことか。また、野生動物を絶滅から守るにはどうしたらよいか。動物たちとともに生きていくために、生き物のつながりを見つけ、動物の立場から地球の立場から考える目を養おう。

『科学の考え方・学び方』 池内了 岩波ジュニア新書

「科学的に考える」とはどういうことだろうか。一線で活躍する宇宙物理学者が研究の方法、最新のサイエンス・トピックを紹介し、私たちの社会と科学の関係について考え、理科を学ぶ意義を若い人たちに向けて熱く語る。

12日のなぞなぞの答えは「雲外蒼天」です。努力して克服すれば快い青空が望めること、という意味の言葉です。

最後に、引き続きなぞなぞです。さて次の先生は誰でしょう？

「3 3 2← 6← 9↓ 3←」